

中一国語

指示する語句と接続する語句

講師・・羽場 雅希

◆ 今日の授業で学ぶこと

- ・ 指示する語句
- ・ 接続する語句
- ・ 接続する語句に着目して読む

◆ 指示する語句

「これ・それ・あれ」「ここ・そこ・あそこ」などは、具体的な名称しょうめいの代わりに、物や場所を指し示す言葉である。

物や場所が不明な場合は、「どれ」「どっち」などを使う。これらの言葉を指示する語句（「こそあど言葉」という）。

指定	状態	方向	場所	事物	
この	こんな こう	こちら	ここ	これ	こ
その	そんな そう	そちら	そこ	それ	そ
あの	あんな ああ	あちら	あそこ	あれ	あ
どの	どんな どう	どちら	どこ	どれ	ど

指示する語句は、物や場所などを直接指示すだけではない。文中の語句や内容、文全体を指し示すことによって、前後の文をつなぐ働きもする。

(例)

・ 父が昔話をしてくれ^{||}た。それは初^{||}めて聞く話だった。

・ 船で世界中の街を訪ねる。そんな旅をしてみたい。

多くの場合、指示する語句は前にある語句や、文を指し示すが、次のように後に続く語句や文を指し示すこともある。

(例)

ある博士はこう予測している。「近い将来、人類は火星に降り立つだろう。」

また、「以上・右・前記・上記・前者―後者」などのような語も、指示する語句と同じ働きをする。

(例)

チンパンジーもオランウータンも、ヒト科の動物である。これまでの研究では、前者は、後者よりも人間に近いと言われている。

◆ 接続する語句

「ところが」「すると」など、前後の語句や文、段落がどのような関係でつながっているのかを示す言葉を接続する語句という。接続する語句には次のような種類がある。

<p>順接</p> <p>前に述べたことが、後に述べることの原因・理由となる。</p>	<p>だから・それで・すると・……と</p> <p>・したがって・以上のことから</p> <p>など</p> <p>▼明日は試合だ。だから早くねよう。</p> <p>……</p>
<p>逆接</p> <p>前に述べたこととは逆になることが後にくる。</p>	<p>しかし・けれども・ところが</p> <p>・だが・……が など</p> <p>……</p> <p>▼図書館にいった。しかし、休館日だった。</p>

並列・累加^{るい}

前に述べたこと
と並べたり、そ
れに付け加えた
りする。

そして・また・なお・および・
それから・しかも・そのうえ など

▼扉^{とびら}を閉めた。そして、鍵^{かぎ}を掛^かけた。

対比・選択^{たく}

前に述べたこと
と比べたり、ど
ちらかを選んだ
りする。

または・あるいは・それとも・もし
くは・いっぽう など

▼電車、または、バスでお越^こしくだ
さい。

説明・補足

前に述べたこと
をまとめたり、
補ったりする。

ただし・つまり・なぜならば・
例えば・まして・要するに など

▼席は自由だ。ただし、最前列は除
く。

転換^{てんかん}

前に述べたこと
と、話題を変え
る。

さて・ところで・ときに・では
など

▼連絡事項^{れんらくじこう}は以上です。さて、本題
です。

〈読むことに生かす〉

◆ 接続する語句に着目して読む

説明的な文章を読むときには、説明する語句が、文章の展開や構成をつかむ手がかりになることがある。次のような語が出てきたら前後に注意して読みましょう。

● だから・したがって

直前で原因や理由が示されていることが多い。

● しかし・ところが

それまでの文章の流れとは逆の内容を述べる。論が深まったり、展開したりする場合が多い。

● つまり・要するに

述べてきたことをまとめる。言い換^かえるときや、要点を示すとき、結論を述べるときなどに用いられる。

● 例え

筆者の考えを裏づける事柄^がなど、具^か体例を挙げるときに用いる。

【第一問】

次の——線の語句が指している部分に
~~~~~線を引きなさい。

① 向こうのかべに掛けた写真をみてください。あれは、修学旅行のときのものです。

② 大きな公園があるのが見えますか。私はいつもあそここで遊んでいました。

③ 全力を尽くす。これが、私がいつも心がけていることだ。

④ 先生はこうおっしゃった。  
「努力が大切だ。」

⑤ トナカイとカモシカ。前者はシカ科、  
後者はウシ科の動物だ。

【第二問】

次の文章が【 】の気持ちを表すように「だから」と「しかし」のどちらかを（ ）に書きなさい。

① 毎日勉強した。

（ ）テストは九十点だった。

【九十点という結果に不満な気持ち】

② 毎日勉強した。

（ ）テストは九十点だった。

【九十点という結果に満足な気持ち】